

一年生になったら

内田保育園の年長組の皆さんから、新一年生になったら何をしてみたいか、抱負を教えてくださいましたので、ご覧ください。

テストで100点をとりたい。

勉強をかんがって100点をとりたい。

友だちがいっぱいできたらいいな。

友だちができるといいな。

勉強をかんがりたい。

本が読めるようになりたい。

一人で学校に行けたらいいな。

勉強をかんがりたい。

運動会をかんがりたい。

国語をかんがりたい。

足し算をかんがりたい。

友だちに優しくしてあげたい。

友だちができたらいいな。

テストで100点をとりたい。

友だちが100人できたらうれしいな。

算数をやりたい。

足し算でいつも100点をとりたい。

1学期、2学期、3学期かんがりたい。

ピアノをかんがりたい。

漢字を読みたい。

理科をやりたい。

友だちがいっぱいできたらいいな。

かんがって勉強したい。

友だちがいっぱいできたらいいな。



平成 30 年 3 月 1 日現在

世帯数	962 戸
人口	2,363 人
男	1,186 人
女	1,177 人

内田公民館 人権学習講座

2月24日、内田公民館にて人権啓発学習講座が開かれました。今年には身近な人権問題全般について、松本人権擁護委員協議会松本部会長の飯島和彦先生と、法務局松本支局民事専門官の細田磨美先生に講演していただきました。

まず飯島先生から、人権擁護委員の活動や、人権を大切にしていかにあたって大事なことを、制度や法律に関して幅広くお話をさせていただきました。

後半では細田先生から、現代の人権問題全般についてご説明頂きました。昨今の人権問題は、情報通信技術の発達によって複雑化しており、先生の解説になるほど、と首肯される参加者の方が多く見受けられました。

講演の中で印象的だったのが、人権とは水や空気のようなものであるというお言葉でした。人権とは目に見えず、あまねく存在して当然のもので、しかし当然と感じながらも、知らず侵害していることもあるかもしれません。それは個人の問題ではないので、皆で常に考えていかねばならないと感じました。



館長おつかれさま



公民館長
中寫 義昭

私が公民館長の任に就いてから四年が経ちました。任期中には公民館の大規模改修工事があり、いつでも気軽に使える身近な施設といいながら、皆様には大変なご不便やご迷惑をおかけしました。お陰様で若干の不便さは残っても、きれいに使いやすい施設へと蘇ることが出来ました。

公民館は地域の皆さんが気軽に集い学びあう場で、仲間づくり、地域づくりの場であるという思いで皆様の意見を尊重しながら事業を行ってきたつもりですが、非才な私にはままならないことが多く、皆様の温かい励ましのお陰で大過なく任を果たせました。

これもひとえに、地域の皆様や公民館運営委員、各種団体の皆様方そして関係職員の皆様のご支援とご協力の賜物と深く感謝申し上げます。

今後とも公民館、内田地区の発展を心よりご祈念申し上げます。退任のご挨拶といたします。

内田地区 市政懇談会

2月2日、菅谷松本市長をはじめ坪田副市長、並びに市の要職の皆さんをお迎えし、内田地区市政懇談会が盛大に開催されました。当日は降雪後の寒い中ではありましたが、地区内から五十余名の皆さまにご参集いただき、地区の身近な安全安心の課題や先々の懸案課題などについて熱い想いを共有する機会となりました。

懇談に先立ち、菅谷市長より講話をいただき、内田地区の高齢化率も高まってきてはいるが、野村総研の調査によると、

松本は安心して暮らせる要素が揃っていて、都市利便性についても享受でき、成長可能性は全国八位にランクされていること。こうした評価を基に、心や体の健康だけでなく、地域や経済、環境など六つの健康づくりを目指して総合的な街づくりを進めており、皆さんも一緒に取り組んでいきましょうとお話がありました。

市政懇談会のテーマとしては、次の三項目について、詳細に松本市側に提案し、検討いただける旨の回答をいただきました。

- ① 国重要文化財『牛伏川階段工』の学習資源としての活用と環境整備② 県道松本塩尻線の六道交差点付近への信号機の設

置と歩道整備③ 福祉ひろば北側多目的広場の舗装についてです。

特に、六道交差点付近の交通安全に关しては、今回の懇談会に合わせ、内田連合町会長並びに明善中学校、明善小学校、寿台養護学校、松本ろう学校の各学校長との連名により、松本警察署長及び松本建設事務所長それぞれに信号機設置と歩道整備の要望書を提出し強く実現をお願いしております。

また、六道交差点の拡幅に関しては、懇談会に出席されておられた地権者の方から協力する旨のご意思が表明され、市側も喜色満面となるなど大変和やかな場面もありました。

今回の懇談会による具体的な施策については、今後の市政に反映されることになり、大変有意義な市政懇談会となりました。

末尾となりますが、開催に当たり、周到にご準備いただきましたスタッフの皆さまに厚く御礼申し上げます。

7町会 小池 財司



内田地区

人権啓発視察研修

～無言館と上田城下へ～

「口をつぐめ、眸をあげよ 見えぬものを見、きこえぬ声をきくために」

無言館のパンフレットに書かれているのは、館長の窪島誠一郎氏の言葉だ。

3月4日、視察研修で上田市へ赴いた。無言館とは、平成9年に上田市に建設された美術館だ。そこには、戦没した画学生

たちの作品が収蔵されている。

展示物を通して戦争の恐ろしさを感じるつもりで訪れた。私は戦時の風景画などを想像していたのだ。しかしそこにあつたのは、彼らの平和な日常を切り出したものでしかなく、そこに争いの香りは皆無だ。それらを手掛けた芸術家の卵たちは、徴兵され戦争に行き、皆20代や30代で早世した。すなわちこれら素晴らしき作品群は、血で血を洗う戦争とは本来無関係であるべき、純然たる才能の結晶が無残に砕かれた一片だ。その破壊は、いつかの未来で訪れるかも

しれない理不尽の可能性もある。

喪われたのは、画学生の命や作品だけではない。それらの喪失を通じ、私たちは日本の原風景をも不条理に奪われたと換言できる。生きてさえいれば、彼らの活躍は今なお目の目を見ていたかもしれないからだ。運命の潮流により、生きることを許されなかつた若き画家たちの輝きの残滓から、目を反らしてはならない。そんな想いが、冒頭の館長の言葉に込められているのではなからうか。我々に来るのは、きつと無念だった彼らに思いを巡らせ、一人一人が幾

久しい平和を希うことを放棄しない努力だと思っただ。午後は上田城下を見学した。合戦の舞台となった地だ。時代の流れを感じ、今の平和を噛みしめながら散策し、帰路についた。



つれづれ編集記

諏訪湖の御神渡りが、平成25年1月以来五年ぶりに出現したということ、2月10日早朝に見に行つて来ました。子ども頃の頃に諏訪湖の氷の上でスケートをしているのを見た記憶はありましたが、御神渡りを見るのは初めてでした。釜口水門から岡谷市湊小学校方面へ湖岸を行くと臨時駐車場があり、そこから歩いて少し戻ると「一之御神渡り」を絶景のポジションで見ることができました。伝説では、諏訪神社上社の男神建御名方神が下社の女神八坂刀売神のもとへ通つた道筋といわれ、厚さ五センチから十センチの氷が割れせり上がった状態が長く続き、真に神秘的でありました。2月5日に八剱神社の神官らによる「御渡り拝観式」が行われ「拝観式占」では、天候は前半不安定だが後半は順調、農作物の作柄はやや良、経済は明るい兆しありとされたとさうです。

六町会 中村 修